

会 議 名	第 22 回 港区景観審議会
開 催 日 時	令和元年 10 月 31 日(木曜日) 午後 6 時から午後 8 時まで
開 催 場 所	区役所 9 階 913 会議室
委 員	(出席者) 倉田 直道 委員 齋藤 潮 委員 長谷 高史 委員 沼田 麻美子 委員 堀口 勢津子 委員 須佐 直人 委員 竹崎 典夫 委員 田邊 学 委員 (欠席者) 渡邊 大志 委員 山崎 誠子 委員
	(臨時委員：港区景観アドバイザー) 藤野 珠枝 氏
事 務 局	街づくり支援部長、街づくり事業担当部長、都市計画課長、開発指導課長、街づくり計画担当係長・係員、景観指導係長・係員
傍 聴 者	なし
会 議 次 第	1 開会 2 議事 (1) 委員委嘱 (2) 会長及び副会長の選出 (3) 令和元年度港区景観表彰 選定の結果について(報告事項) (4) 第4回区民景観セレクションの実施について(審議事項) 3 閉会
配 付 資 料	資料 1 港区景観審議会委員名簿 資料 2-1 令和元年度港区景観表彰の結果について 資料 2-2 選定された施設等の一覧 資料 3-1 第4回区民景観セレクションの実施概要 資料 3-2 第4回区民景観セレクションの公募チラシ(案) 参考資料 1 「令和元年度 港区みどりの街づくり賞・景観街づくり賞・区民景観セレクション」パンフレット 参考資料 2 第3回区民景観セレクション募集ちらし

参考資料3	区民景観セレクション選定景観（第1回～第3回）一覧
参考資料4	港区景観表彰実施要綱
参考資料5	港区景観表彰選定審査会運営要領

会議の結果及び主要な発言

2 議事

・令和元年度港区景観表彰 選定の結果について（報告事項）

事務局

（事務局から説明）

A臨時委員

港区は比較的緑の基準が厳しく、大規模な開発では緑量が多くなるのが当然な部分もあり、厳しい目で審査を行ったが、今回の街づくり賞の超高層ビルは、これからどのようなまちにしていきたいかという将来を感じられ、大きな建物ながら、低層部や周辺環境にも配慮しており評価できた。もう1点の街づくり賞の受賞施設は割と小さな敷地ながらも非常に個性的で、何よりも容積ボーナスをもらわずに、規制の中でここまでつくられたことをとても評価できた。また区民景観セレクションの方は、区民の皆さんの応募が非常に増え、喜ばしいことで、また我々も知らないような視点も多く、非常に選定のしがいがあった。

B委員

郷土や誇りを感じるような建物が選ばれているようで、素晴らしいと感じた。このような表彰を行っていくということは、作る側にとってもインセンティブになっている。民間の建物かもしれないが、やはり大きな建物や景観というのは、みんなのものだと思うので、このような表彰や、100選の選定を今後もなるべく続け、より周知徹底できれば、すばらしい港区になっていくのではないかと思います。

C委員

港区に住んでいる方と言っても幅広い地域があるので、区民景観セレクションに選定された景観だけでなく、街づくり賞も区民の方にもよく知っていただくことで、自分が住んでいる場所以外のこともわかり、区民の意識向上にもつながると思う。そしてそれがまた区民景観セレクションの応募も積極的にさせるという、相互にいい影響を与え合おうと思う。

D委員

私の景観に対する考え方の中に、景観のヒエラルキーとして「近景」「中景」「遠景」の三つのほかにもう一つ、触る景色「触景」という、非常に身近な「触れる」というところからも景色が始まっていくというものがある。「触景」から「近景」「中景」そして「遠景」というところへ段階的に展開できるのではないかと考えている。このようにヒエラルキーとして考えると、今回選ばれているそれぞれの受賞作品の見せ方も、もう少し身近なところから、遠景へと広がり、周辺の景観に対する影響がこれだけすばらしい、というような展開ができると、よりアピー

ルができるのではないかと感じた。

E委員

区民景観セレクションについて、過去に新橋の居酒屋の喧騒の写真が、審査において物議を醸したとお聞きしているが、この賞の現在の評価基準では、おそらく新橋や赤坂などのにぎわいある景観というのは受賞できないという課題があると感じる。港区の小学生は区のみならず、西側の台地には主に住宅地が広がり、東側の低地には商業地が連なることを学習するが、従来の応募、受賞作品を見ると西側が主体で東側の商業地が抜け落ちている。歴史的にみても、港区は住宅地主体の街とはいえないので商業地の評価をもう少ししっかりすることが必要である。評価基準も含めて、にぎわいのあるまち、それから人のいるまちというのが、賞の中に入ることを望む。

事務局

行政として、良い景観を表彰する側面と、違法な看板等を規制する側面と、両面を持つ。看板の掲出等について、合法的でより良い景観を誘導するため、屋外広告物景観形成ガイドライン等を策定している。これが浸透し、合法的なものを表彰できるようになると良いと考えている。

・第4回区民景観セレクションの実施について（審議事項）

（事務局から説明）

E委員

今回のメインテーマは「地形」ということで、港区の特性で見ると、地形の起伏の多い西側よったテーマであると思うが、おそらく、東西の境目の坂道というのが、非常に港区らしい景観要素でもあり、応募が期待される場所であると思う。その際に、公募の仕方を少し工夫すると、注目される度合いが大きく変わると思う。たとえば、港区には「乃木坂」「けやき坂」「日向坂」等、話題性のある坂が揃っているほか、映画なりドラマでどこの坂道が出てきたなどの情報と併せ、少し戦略的に周知を行うと、今までとは違った層の方々の目に触れる機会も増え、もう少し幅広い層から着目されると思う。それともう1点、区民景観セレクションと言いつつ、やはり審査会の評価を得たものが選定されるということになっているが、他の自治体では市民団体が選定したものを表彰している例もある。例えば、審査会の評価とは別に、区民だけが選ぶ賞を設けて、ノーベル賞とイグノーベル賞の関係のようなものも作っていただくと、商業地の風景も取りあげられるような気がする。

D委員

新橋に外国人が面白がって多く来ているということ等もあり、にぎわいも一つの風景、景観として捉えるという視点があるといい。また、テーマのフレーズに、風情、にぎわい等の言葉が出てきているが、これを写真1枚で伝えるのはなかなか

難しい。動画の応募も受け、5秒10秒程度でいいが、坂道を下る、見上げる等、その景観が繋がっていくというシークエンスが大事である、というようなことを展開できたらいい。今回すぐにというのは難しいかもしれないが、応募の仕方ですまほを利用するような展開が考えられないかと思う。

F 委員

区民景観セレクションは今回4回目となり、これからどんどん選定された景観が増え、毎回このようにパンフレットを作っているが、実際に歩いている人はパンフレットを持っていない。街中を歩いていて、視点場を示す看板やマークがあったり、携帯のアプリを見てポイントがわかるようにする等、パンフレット以外にも選ばれた景観が見えるような形にしていくといいと思う。またメインテーマの「地形」というと、坂や階段が漠然と思いつくが、これを写真1枚や応募コメントで良さを伝えるのはなかなか難しいテーマであると思う。先ほど動画という話もあったが、1枚の写真ではなくて、何枚か応募してもらおう等の工夫がほしい。

G 委員

テーマとして「地形を感じる景観」というのは、港区の特徴でありいいと思うが、それを応募する方がどのように受けとめるかが大事で、少しわかりやすく解説するということが必要かを感じる。一方、「にぎわい」というのは、いずれはメインテーマになると思う。港区らしいにぎわい景観というものがあるような気がする。そういう意味で今回は前振りの、選択応募部門の中に、さりげなくキーワードとして入れておいてもいいと思う。

また、今回の受賞景観の応募者を見ると最終的に選ばれた方が、3名重複している。応募者名を伏せて審査してきた結果であり、必ずしも悪いことではないが、できればこれだけの応募があったので、審査の視点をもう少し広く持つことで、選ばれる人たちも幅広くなってくると感じた。

それから、応募期間が秋から冬にかけてであるため、落ち葉などの風景は結構あるが、新緑などは、この応募の中に登場しにくいと思う。そういう意味では、違う季節の風景を募集チラシに補足すると良いと感じた。審査の際には、事務局が補足する意味で、他の季節の写真も入れていただくと良いと感じた。

C 委員

その季節にすてきなところというのが、それぞれあつたりするので、季節が偏らないような工夫というのは欲しい。また、先ほどお話があつたが、応募があつたところや、選ばれたところのパネルやプレートを立てたり、マップにするなど、区民景観セレクションをこのパンフレットがあるときだけでなく、皆さんが歩きながら、通年で感じられるとよい。

また、普通に暮らしている人にとっては、遊びに行く、食べる、一杯飲んでいく等が重要なポイントであると思う。このようなことをふまえると、景観街づくり賞は、やはりデベロッパー等大手の会社の感覚となり、少し生活感覚から外れるので、別の立ち位置として、区民景観セレクションでは、にぎわいある景観、回

遊したくなる景観等に着目することは良いことであると思う。

それから、予備選定の評価の方法についてであるが、各委員において応募の中から10件を選ぶとのことであるが、例えば、強く推薦したいもの、そこまでではないが推薦するもの等、3段階くらいで重みづけをして評価してはどうか。

H委員

経験から言うと、指摘の通り、選定したものの中にも、強く推薦したいものとそうでないものもある。ただ、結局最終的には、選定から外れるものは外れていくというのが印象であった。選定方法は、件数も多く、時間も限られているため、パンパンと段階的に絞っていかないと決まりにくいと感じた。審査会の中では、投票は少なくとも委員から押したいものがあれば、拾いあげるといった議論もしている。限られた時間の中で選んでいくには、100%ではないが、悪い方法ではないと印象を持った。

D委員

選ばれそうだが看板が違法のため選べないという際に、区として、看板を変えてもらえれば賞に入るというような指導は可能か。過去に他の表彰を審査していた際に、どぎつい色の看板があり、地域としてはもう少し変更してほしいということをお伝え、変更案を提案してもらい、色を変えてもらったことがあった。このようなことが指導という形で、景観をより良くするプログラムの中にあってもいいのではないかと感じた。

事務局

日常の景観協議の中で、地域特性に合わせた形で、色を変えていただいた事例はある。建築物の景観は、協議の中で良い結果につながったものも、景観街づくり賞として表彰しており、そのような意味で民間の方にとっても励みになっているのではないかと感じている。

I委員

過去の景観街づくり賞特別賞で、沿岸部の倉庫看板を改善した事例に賞を与えたこともあった。今後もこのような事例に、賞を与えることもありうるのではないかと。また道路占用等違法でない状態で、にぎわい景観が生まれている例を紹介する等もあると良い。

E委員

これまでの受賞景観を見るとお祭りやマルシェ等、人が集まって楽しげにしている写真というのがない。港区は歴史のある街で、祭りがたくさんある一方で、洗練されたおしゃれなマルシェも、いろいろなところで行われていると思う。このようなものであれば、違法性は少ないと思う。募集テーマの中に、お祭りやマルシェ等の言葉を取り上げていただくと、人がいて、暮らしがあるというところが見てとれるような景観の応募も増えるのではないかとと思う。

I委員

「地形」というキーワードで、イメージが湧くかという懸念は当然あると思う。

	<p>募集用紙に書ききれないことでも、ホームページにアクセスすると少し丁寧に書いてある等の工夫が必要と感じる。</p>
<u>H委員</u>	<p>坂道の写真は撮るのが難しい。先ほどの議論の通り、応募写真は何点かないと坂道のよさ等は伝わらない。また、チラシに地形を感じる景観がどのようなものかが、1枚の写真に表現できると良い。前回の募集チラシは、東京タワーの写真が大きくあり、メインで募集するのは東京タワーだとわかるようになっていた。文章はあまり読まれないので、今回も「地形を感じる」写真がメインであり、ぱっと見てわかるような仕掛けをしたほうが良い。</p>
<u>B委員</u>	<p>地形を感じる景観というと、坂道等が思いつくが、近くから写真を取るとなかなか表現するのが難しい。少し遠くからその坂道や階段だけではなく、周囲にある建物とうまく調和しているような景観というのが港区らしいと感じるので、このような景観も期待したいと思う。</p>
<u>会長</u>	<p>本日の意見を踏まえ、検討を行った上で、基本的には案の方向で進めていくものとする。</p>
	<p>3 閉会</p>
<u>事務局</u>	<p>次回の港区景観審議会は、改めて日程調整を行ったのち連絡する。</p>
	<p>閉会</p>